

言語聴覚障害学概論

[講義] 第1学年 後期 必修 2単位

《担当者名》 永見慎輔 nagami@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

言語聴覚障害学の入門として、言語聴覚障害学の学問背景、基礎的知識と言語聴覚士の職務の基本的事項を学ぶ。専門各論・演習への導入となっている。

【学修目標】

<一般目標>

リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備えるために、言語聴覚障害学、言語聴覚療法に関する基礎的知識を理解する。

<行動目標>

1. 言語聴覚障害学の学問背景と基本的事項について説明できる。
2. 言語聴覚障害の定義、原因、症状、評価・鑑別診断、代表的治療法を理解し、説明できる。
3. 言語聴覚士の職務および言語聴覚療法の基本概念、臨床を理解し、説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	言語聴覚士の職務と活躍の場	言語聴覚士の職務 / 言語聴覚士の活躍の場	永見慎輔
2	言語聴覚士の歴史と養成教育	言語聴覚士の歴史 / 養成教育	永見慎輔
3	臨床実践における基本理念	職業倫理 / リスク管理 / 多職種連携 / ICFの活用	永見慎輔
4	言語聴覚療法の臨床業務の流れ	臨床推論 / 測定, 評価, 診断	永見慎輔
5	言語とコミュニケーション	ことばの機能 / コミュニケーション / 言語	永見慎輔
6	日本語の特徴	音 / 語 / 文 / 意味 / 語用 / 文字	永見慎輔
7	言語・コミュニケーションの獲得	前言語期・幼児期	永見慎輔
8	言語・コミュニケーションの獲得	幼児期・学童期の言語発達	永見慎輔
9	発声発語の器官とメカニズム	呼吸 / 発声 / 構音 / 共鳴 / 国際音声記号 (IPA)	永見慎輔
10	摂食嚥下の器官とメカニズム	咽頭 / 喉頭 / 摂食嚥下のメカニズム / 嚥下モデル	永見慎輔
11	ことばと脳	神経系 / 脳の構造と機能	永見慎輔
12	ことばと脳	脳の構造と機能 / ことばを支える神経	永見慎輔
13	きこえとバランス感覚のメカニズム	音と人のきこえ / 聴覚器官の構造	永見慎輔
14	きこえとバランス感覚のメカニズム	聴覚器官の構造 / 平衡器官の構造	永見慎輔
15	まとめ	本講義の総括	永見慎輔

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験90%、課題10%

【教科書】

倉智 雅子 他 編 「最新言語聴覚学講座 言語聴覚障害学概論」 医歯薬出版 2023年

【備考】

授業資料の配布はGoogle Classroomを利用することがある。講義の一部でGoogle Formを活用する。利用方法は講義内で説明する。

【学修の準備】

予習では、講義内容を確認し、教科書を読み、専門用語を調べ理解しておくこと(80分)。
復習では、教科書と講義で配布された資料を整理し、講義内容の理解を確実にすること(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(2026年度・リハビリテーション科学部)

(DP2) 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

永見慎輔 (言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、言語聴覚士の関わる領域に関する基本的知識および言語聴覚士の職務について講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している